



診療所だより

「ボケないために(100歳の調査)」

森ノ宮医療学園附属診療所 院長 田中邦雄

お年寄りの患者さんは誰でも「ボケたくない」とおっしゃいます。

残念ですが人間はだれでも脳の老化は起きます。ボケる可能性はあります。しかし、いつボケるかは個人差があります。

この個人差には若い頃から変わらず続けていた生き方(ライフスタイル)の問題が指摘されています。このライフスタイルの形成には幼児期の感性教育が関係しているといわれています。つまり、ボケる人には幼児時代の教育が原因と思われるケースもあるのです。

といいましてもボケの90%は主として生活環境因子で起こるとされています。その中で今一番問題になっているのが「老化・廃用型痴呆」、つまり「グータラ・ボケ」、「生き甲斐・趣味がない、友達もない、体も動かさない」のナйнаイツクシのナマケモノ・グータラな人に真っ先に起こるボケです。

浜松医療センターが東京・神奈川・静岡・愛知の819人の100歳以上の高齢者を調査し、その内で心理・知能テストで「一人の社会人として合

格」と認められた20名の共通点を報告しています。

その結果をまとめてみますと、

- 1) 体が頑強で足腰がしっかりしている。
- 2) 生き甲斐・趣味・交友があり、人生を楽しんで生きている。
- 3) 高学歴の人が多い。
- 4) 積極的で、自己主張の強い性格。
- 5) 酒・煙草はやらない。

食前酒をたしなむ人はいたが、大酒のみはいませんでした。

この5つの心がけが高齢の方が「どうしたらボケを防げるか」の方法といえるかもしれません。

チューター制度を導入しました

教務部次長 森優也

本年度より、鍼灸学科では、在学生のさらなる学習の向上と学園生活の充実を目的として、チューター制度を設けました。本校のチューターは、卒業して間もない卒業生が、単に教員の助手としてではなく、学生達の先輩として、臨床実習や実技実習の手助けや学園生活の中での相談窓口になってもらっています。現在、4名のチューターが日々奮闘、活躍しておりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

チューター紹介



中川典子

医療者としての鍼灸師を目指しています。宜しくお願いします。



中村祐太

価値判断は下さず、ただ認識するだけ。常にそう自分に言い聞かせています。よろしくお願いします。



村上碩熙

柔道整復学科に通いながらチューターをしています。何事にも柔軟に対応できる鍼灸師を目指したいと思います。



涌田裕美子

森ノ宮医療学園の名に恥じないよう良い臨床家を目指し頑張ります。

新人職員



事務受付 伏井奈穂子

ひたむきな学生さんや、真摯な先生方の姿を身近で拝見し、思わずこちらも居住まいを正す日々です。学校へお越しの際は、いつでもお気軽に声を掛けてくださいわ(へ)



鍼灸室 成田真和

今年2月から附属診療所鍼灸室に勤務しております。鍼灸学科27期の成田真和です。よろしくお願いします。

鍼灸学科



教員助手 南一成

学生の立場に立ち、少しでも皆さんのお役に立てるように努力していきたいと思っています。よろしくお願いします。



教員助手 山田千寛

学生さんとともに切磋琢磨しながら成長していけるよう頑張ります。まだまだ未熟者ですが、皆さんのお役に立てるよう努力していきたいです。

柔道整復学科



教員助手 吉川早苗

まだまだ未熟な点の目立つ自分ですが、学生さんと一緒に学び、成長していきたいと思っています。



教員助手 外林大輔

柔道整復学科3期生間部の外林です。今春卒業し、教員助手をさせて頂くことになりました。尊敬する先生方の下、さらなる知識、経験の向上を図るべく精進したいと思います。